

ご使用の前に必ずお読みください

このたびは、ヤマハステレオプリメインアンプAX-1をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-1の優れた性能を十分に発揮させるとともに、末長くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

目次

特長	1
豊かなAVライフのために	2
ご使用のまえに	3
システム接続図	4
フロントパネルの名称	6
接続のしかた	7
レコードプレーヤーの接続	7
チューナーの接続	8
テープレッキの接続	8
DATの接続	9
CDまたはCDVプレーヤーの接続	10
レーザービジョンディスクプレーヤーまたは衛星放送チューナーの接続	11
DIGITAL端子について	12
ビデオデッキの接続	13
モニターテレビの接続	13
ACCESSORY端子の接続	14
スピーカーの接続	14
フロントパネルの名称とはたらき	15
リモコンについて	17
操作のしかた / 再生	20
ジャイアントレグとピンポイントレグについて	21
操作のしかた / 録音・録画	21
オーディオプログラムの録音のしかた	21
REC OUTセレクターについて	22
ビデオデッキでの録画のしかた	23
タイマー再生、タイマー録音・録画のしかた	24
故障かなと思ったら	25
ブロックダイアグラム	26
参考仕様	27
ヤマハホットラインサービスネットワーク	28

特長

本機はヤマハオリジナル、8倍オーバーサンプリングデジタルフィルター・18ビットツインD/Aコンバーターのハイビット・デジタルシステムを搭載した先進のプリメインアンプです。

●ハイビット・デジタル技術が息づく回路設計

ヤマハ最新の高精度デジタル演算システム：ハイビット・デジタル技術が随所に息づく本機は、サンプリング周波数32kHz、44.1kHz、48kHzに自動追従するI/Oレシーバーを内蔵していますので、あらゆるデジタルソースに対応します。

●HCA回路搭載により理想のA級動作を実現

低インピーダンス負荷時でもA級動作を確保するHCA：ハイパーボリックコンバージョン（双曲変換）Aクラスアンプを搭載する本機は、2Ω負荷時のダイナミックパワー230Wおよび定格出力100W/6Ωを実現しました。

●豊富な入・出力端子を装備したオーディオセクション

本機は、デジタル音声（同軸）入力3系統／出力1系統、デジタル音声（オプティカル）入力2系統を装備。さらにアナログ音声入力7系統／出力3系統の豊富な入・出力端子を装備しています。

●充実装備のビジュアルセクション

ビジュアルバッファアンプを独立してON、OFFするVIDEOスイッチ搭載のビジュアルセクションは、入力3系統、出力2系統を装備、ビジュアルソースにも万全の対応です。

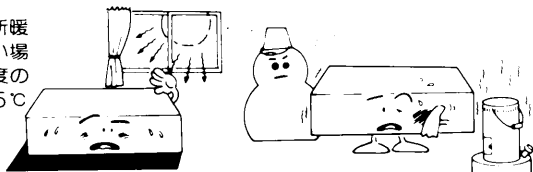
●徹底した音質重視、制振設計

本機は70μm厚フリント基板、大容量超低電解コンデンサーを始めとするクオリティパーツの投入、そして肉厚のトップおよびボトムカバー、さらに低共振チムニー型ヒートシンクの採用など、徹底的な音質重視・制振設計が図られています。また脚部は、高剛性ピンポイントレグ／ジャイアントレグを装備し、お好みの音質を選択することができます。

豊かなAVライフのために

高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)は、さけてください。



セットの放熱を妨げない

放熱を妨げないため、通気性の悪い場所には設置しないでください。

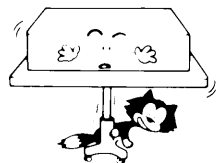


ほこり・水気をさけて！

ほこり・水気の多い場所はさけてください。本機の上に、花瓶や金魚鉢など水の入ったものは置かないでください。

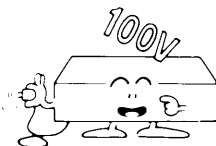


不安定な場所をさけて！

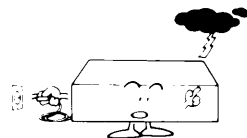


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V



雷が近づいたら

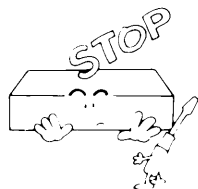


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

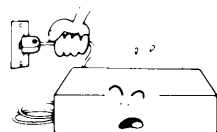
保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

開けないで！

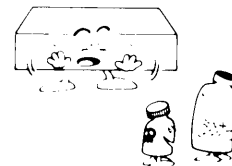


引っばらないで！

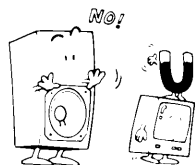


薬物厳禁

ベンジン、シンナーなどの溶剤でふくと、変質したり変色することがあります。薬物の使用はさけてください。掃除をするときは、柔らかい布でカラぶきしてください。また接点復活剤は塗布部分などに悪影響をおよぼしますので、ご使用はさけてください。



磁気・テレビはさけて！



こわれた？



25ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。



これは音楽工場工学会 音のエチケット
ミュージックファン・ホルマークです

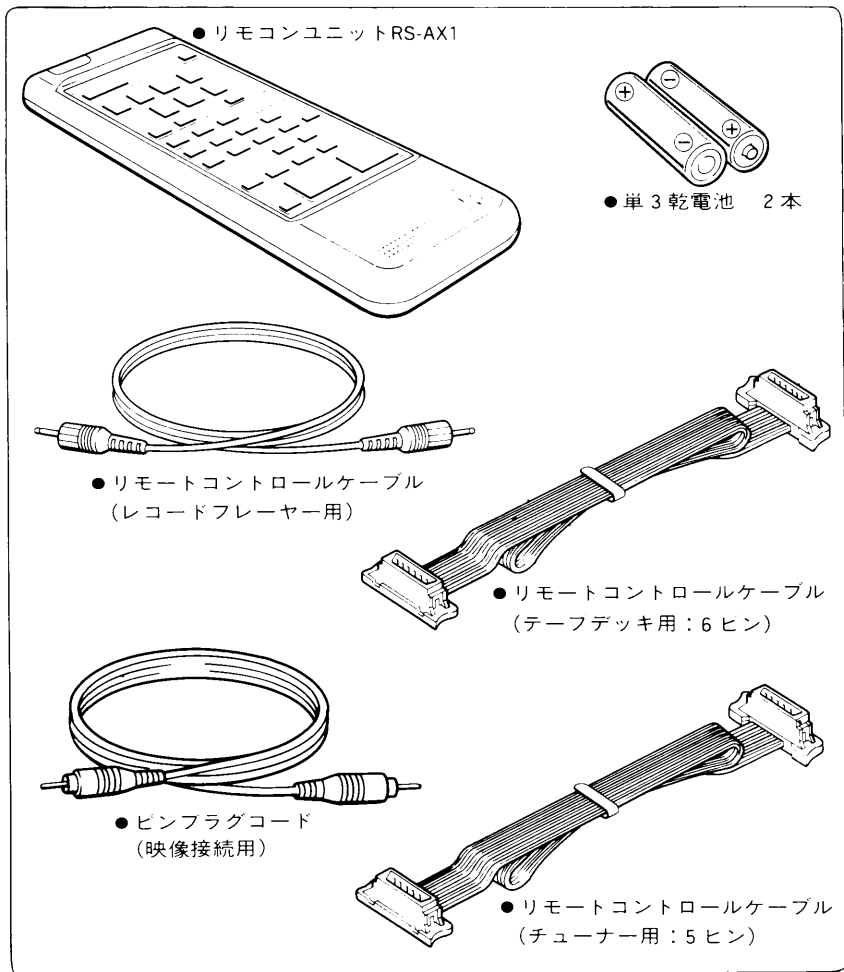
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を開めたり、ヘッドホンを二使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなて楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ご使用のまえに

■付属品をご確認ください。

付属品は6点あります。



■設置場所について

本機はAクラスアンプのため、ご使用中は熱を発生します。設置の際は通気性の良い場所を選び、放熱を妨げないようにしてください。

また、本機はデジタル機器ですので、本機を使用中は他の機器に影響を与えることがあります。テレビ画面が乱れたり、チューナーに雑音が混入するようときは、それらの機器と本機の設置場所を離してください。またテレビやチューナーが簡易型室内アンテナを使用している場合には、専用の屋外アンテナに換えますと、テレビやチューナーへの影響が軽減されることがあります。

本機をご使用にならないときは、本機のPOWERスイッチをOFFにしておいてください。

接続のしかた

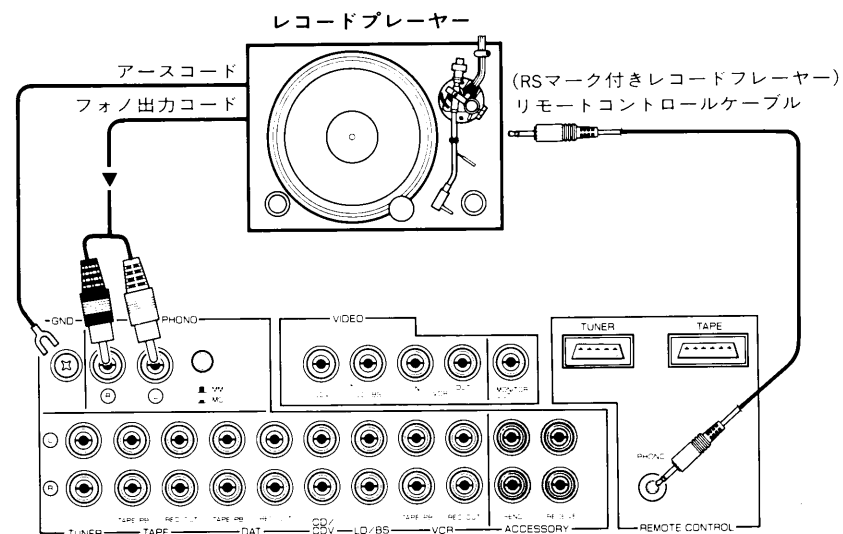
- 接続の際は、本機および接続する機器の電源を必ずOFFにしてから行ってください。
- 接続する機器によっては端子名などが異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご参照ください。
- アナログ入・出力端子を接続する場合は、市販のL、R 2本一組のピンプラグコードをご用意ください。
- デジタル信号は一本のケーブルでL、R信号が伝送されます。本機と同軸端子を接続する場合は、市販のピンプラグコードまたは75Ω同軸ケーブルを、OPTICAL端子を接続する場合は市販のオプティカルケーブルをご用意ください。
- 接続するときは各機器のIN(入力)OUT(出力)およびL(左チャンネル) R(右チャンネル)を確認し、確実に接続してください。
- 接続に誤りが無いことを確認してから、本機の電源コードをACコンセントに接続してください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナー)などに影響を与えるようなときは、本機とその機器の設置場所を少し離してください。

- ▶—アナログ音声信号の流れ
- ▶---デジタル音声信号の流れ(同軸)
- ▶---デジタル音声信号の流れ(オプティカル)
- ▶—ビジュアル信号の流れ

レコードプレーヤーの接続

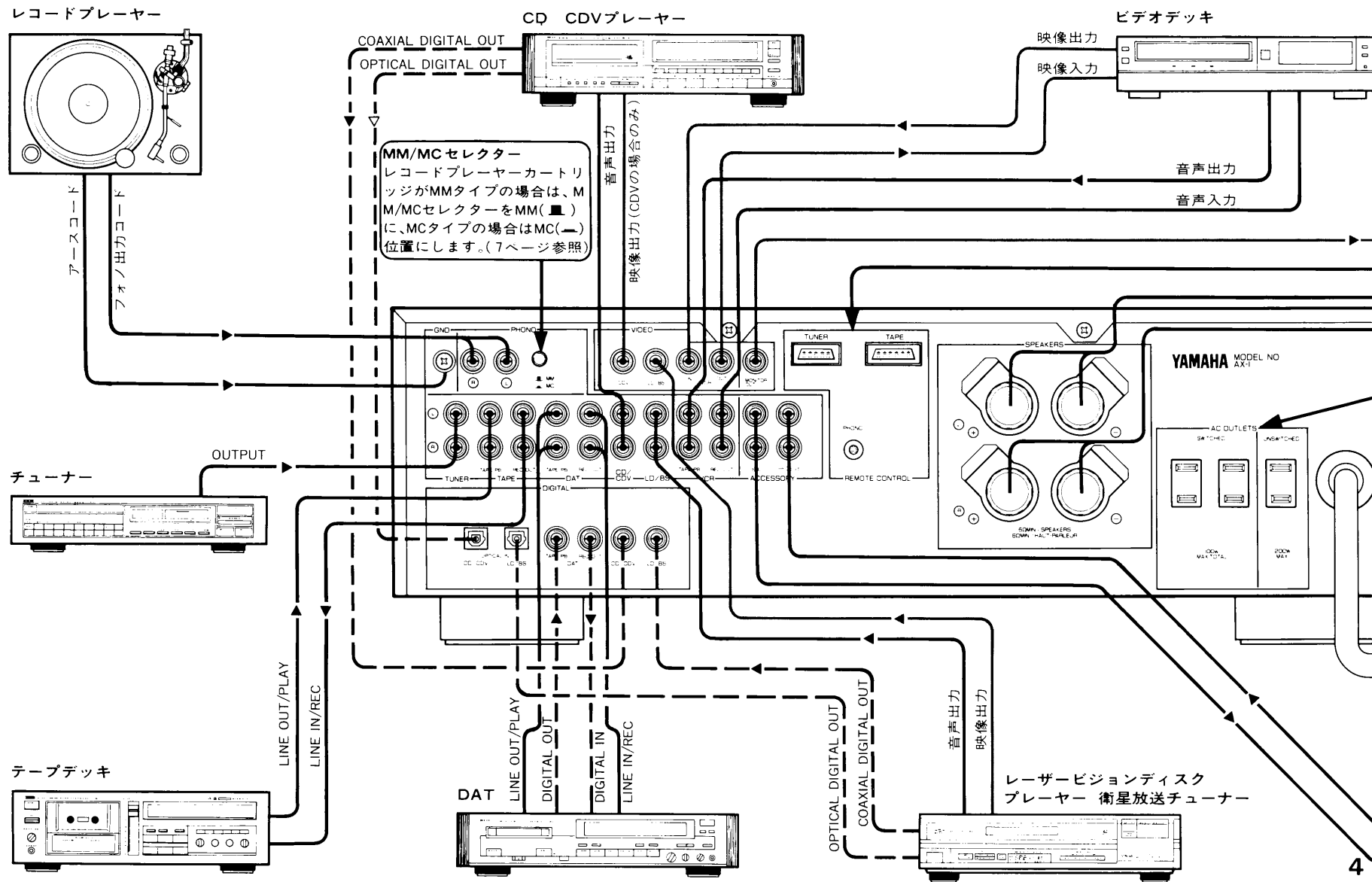
レコードプレーヤーの出力コードを本機のPHONO L、R端子に接続します。

- 出力コードにアースコードがある場合にはGND端子に接続します。
- 接続したレコードプレーヤーのカートリッジがMMタイプの場合は、MM/MCセレクターをMM位置(■)に、MCタイプの場合はMC位置(▲)にセットします。
*高出力タイプのMCカートリッジはMM位置で使用することができます。詳細はカートリッジの取扱説明書をご参照ください。
*MMカートリッジをMC位置で再生しますと、音が歪んだり大音量となりスピーカーその他に悪影響を与えることがあります。ご注意ください。
- ヤマハのRSマーク付きのレコードプレーヤーは、付属のリモートコントロールケーブルでREMOTE CONTROL端子間を接続しますと、本機のリモコンでレコードプレーヤーをコントロールすることができます。

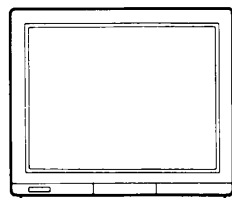


システム接続図

●詳しい接続方法は7ページ～14ページをご参照ください。



モニターテレビ

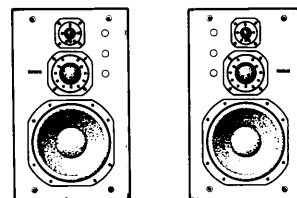


映像入力

REMOTE CONTROL 端子

本端子とヤマハRSマーク付きのテーブデッキ、チューナー、レコードプレーヤーを、本機に付属のリモートコントロールコードで接続しますと、本機のリモコンRS-AXIで、それらの機器をコントロールすることができます。(7、8ページ参照)

L スピーカー R



- ▶— アナログ音声信号の流れ
- ▶--- デジタル音声信号の流れ(同軸)
- ▷--- デジタル音声信号の流れ(オプティカル)
- ▶--- ビジュアル信号の流れ

AC OUTLETS (電源供給コンセント)

SWITCHED

本機のPOWERスイッチと連動しています。消費電力が2個のコンセント合計で100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

UNSWITCHED

本機のPOWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力が200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。

電源コード

本機の消費電力は350Wです。必ず壁の家庭用AC100V 50/60HzのACコンセントにプラグを接続してください。また、接続の際はプラグの「G」マークされた側のブレードをコンセントの長い方の穴に差し込んでください。

AX-1 端子仕様一覧

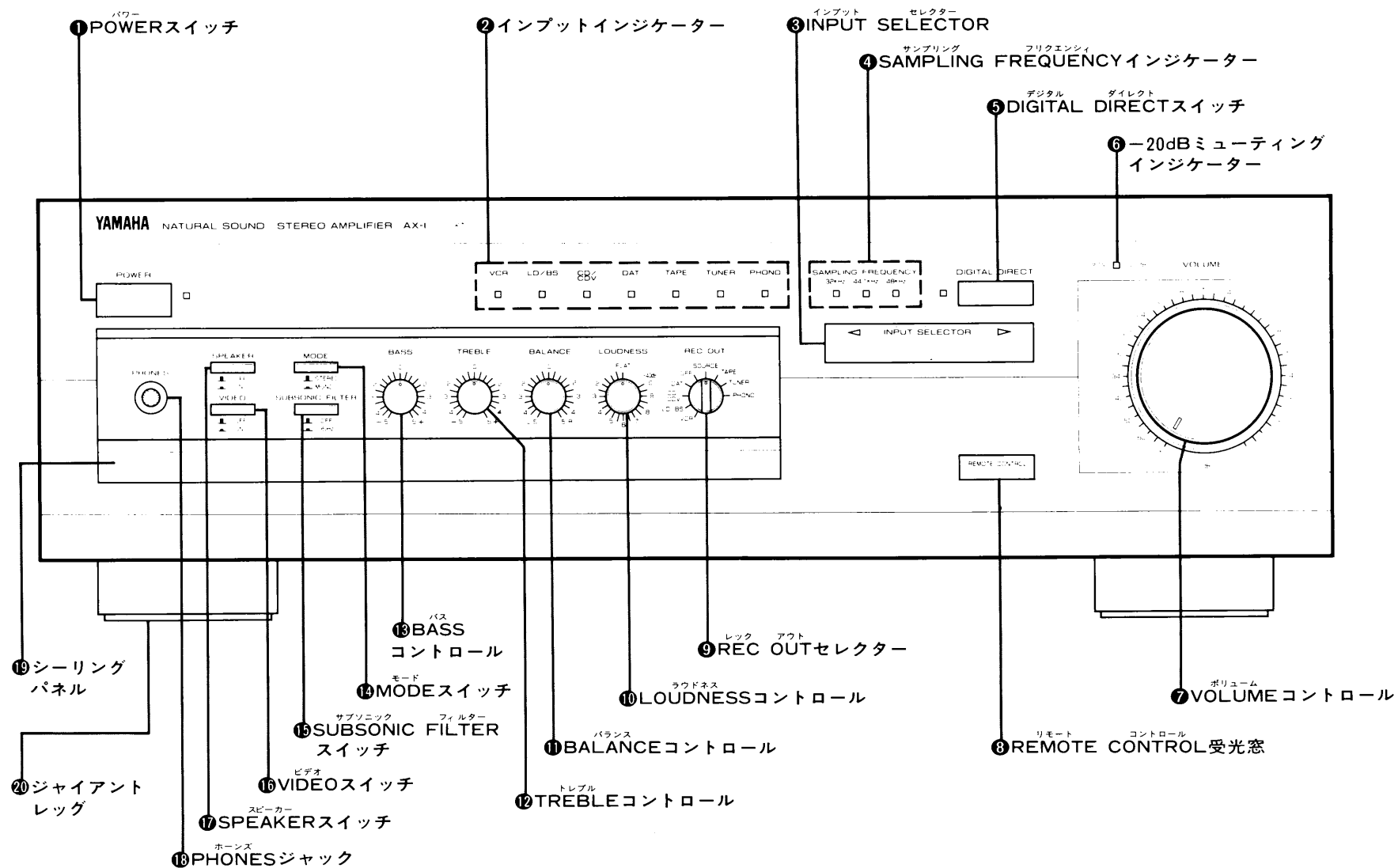
端 子 機 器	アナログ音声		デ ジ タ ル 音 声				映 像	
	INPUT	OUTPUT	同 軸		OPTICAL(光)		INPUT	OUTPUT
			INPUT	OUTPUT	INPUT	OUTPUT		
PHONO (MM/MC)	○							
TUNER	○							
TAPE	○	○						
D A T	○	○	○	○				
CD/CDV	○		○		○		○	
LD/BS	○		○		○		○	
V C R	○	○					○	○
ACCESSORY	○	○						
VIDEO MONITOR								○

グラフィックコライザー DSPなど



フロントパネルの名称

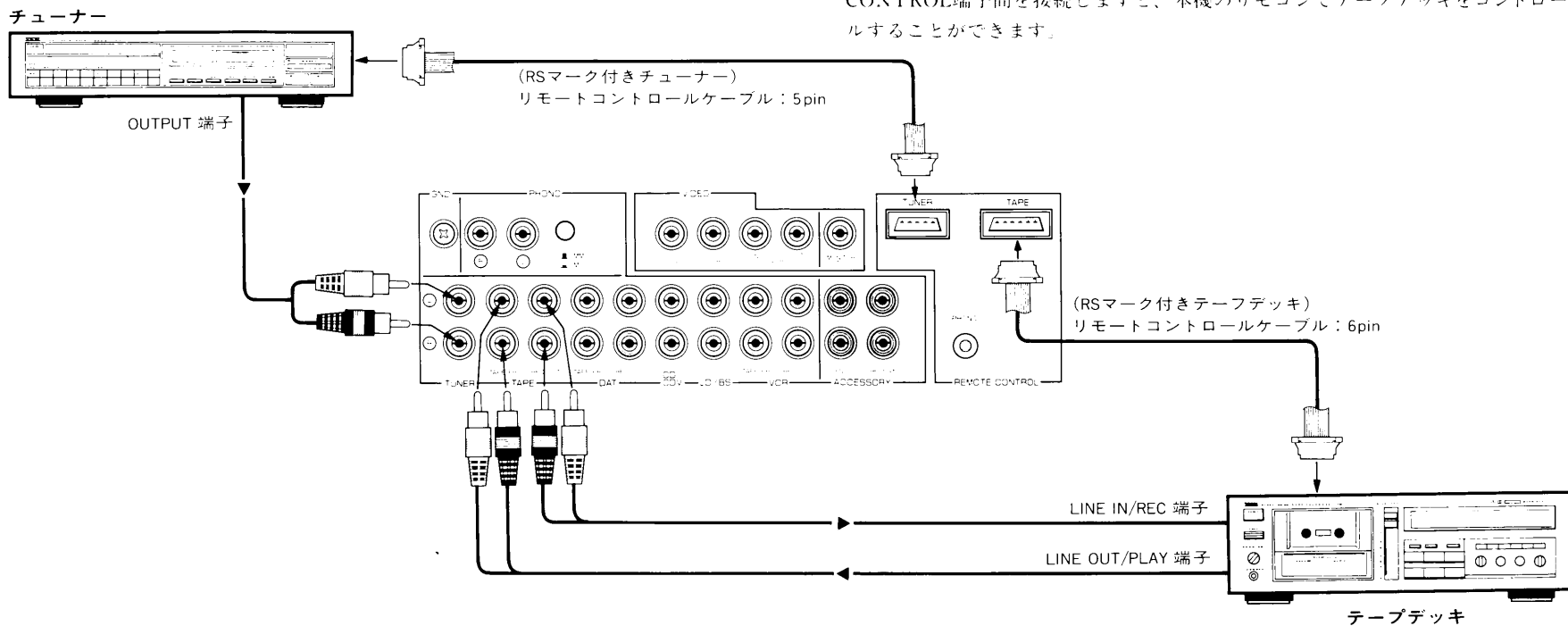
●フロントパネルの名称とはたらきは15ページをご参照ください。



チューナーの接続

チューナーの出力端子 (OUTPUT) と本機のTUNER L, R端子をヒンフラグコードで接続します。

- ヤマハの **RS** マーク付きのチューナーは、付属のリモートコントロールケーブルでREMOTE CONTROL端子間を接続しますと、本機のリモコンでチューナーをコントロールすることができます。



テープレックの接続

●再生用の接続

テープレックの出力端子 (LINE OUT/PLAY) と本機の TAPE PB L, R端子をヒンフラグコードで接続します。

●録音用の接続

テープレックの入力端子 (LINE IN/REC) と本機の TAPE REC OUT L, R端子をヒンフラグコードで接続します。

- ヤマハの **RS** マーク付きのテープレックは、付属のリモートケーブルでREMOTE CONTROL端子間を接続しますと、本機のリモコンでテープレックをコントロールすることができます。

DAT(デジタルオーディオテープデッキ)の接続

DATのデジタル端子と本機のデジタル端子(DIGITAL DAT)を接続しますと、ハイクオリティな再生・録音をすることができます。

- デジタル接続をする場合も、アナログ接続を同時に行ってください。

「デジタル端子の接続」

●再生用の接続

DATのデジタル出力端子(DIGITAL OUT)と本機のDIGITAL DAT TAPE PB端子をヒンフラグコードまたは75Ω同軸ケーブルで接続します。

●録音用の接続

DATのデジタル入力端子(DIGITAL IN)と本機のDIGITAL DAT REC OUT端子を接続します。

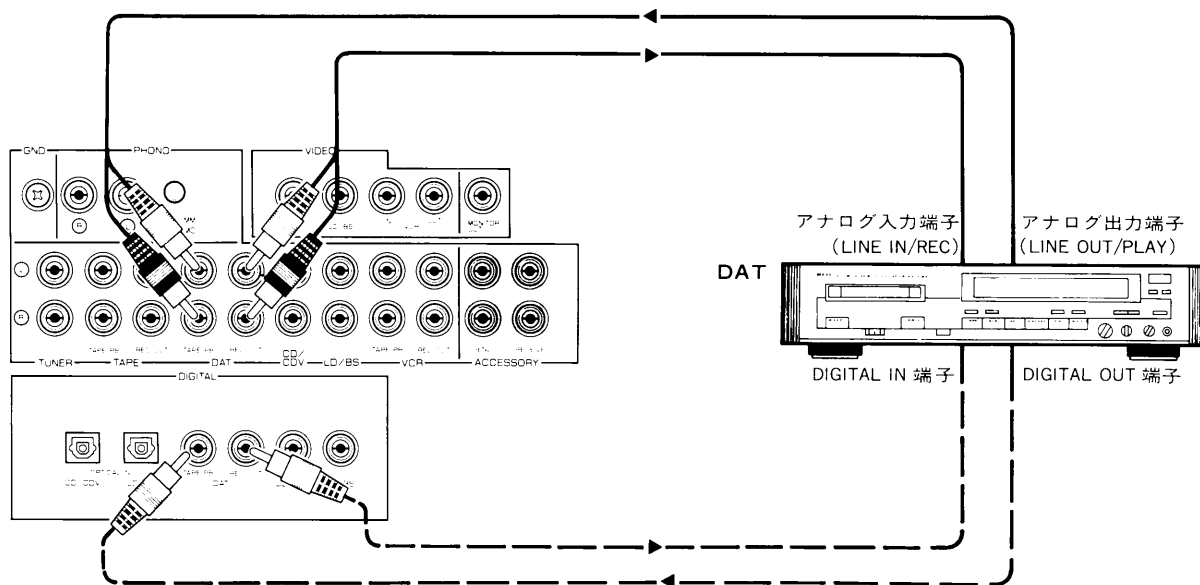
「アナログ端子の接続」

●再生用の接続

DATのアナログ出力端子(LINE OUT/PLAY)と本機のアナログDAT TAPE PB端子をヒンフラグコードで接続します。

●録音用の接続

DATのアナログ入力端子(LINE IN/REC)と本機のアナログDAT TAPE REC OUT端子をヒンフラグコードで接続します。



CDまたはCDVプレーヤーの接続

本機はアナログ入力端子と同軸、オフチカル2種類のデジタル入力端子を装備しています。

デジタル出力 (DIGITAL OUT) 端子を装備したCD/CDVプレーヤーとデジタル接続をしますと、CD/CDVプレーヤーのデジタル出力が本機のD/Aコンバーターにダイレクトに入力され、ハイクォリティな再生をすることができます。

- デジタル接続をする場合も、アナログ接続を同時に行ってください。

本機では、アナログ信号とデジタル信号が同時に入力された場合には、デジタル信号を優先して入力します。

また、デジタル信号が同軸、オフチカル両方の信号で同時に入力された場合は、オフチカル入力が優先して選択されます。

「デジタル音声端子の接続」

CD/CDVプレーヤーのデジタル音声出力端子と本機のDIGITAL CD/CDV端子を接続します。

同軸端子を接続する場合は、ヒンフラグコードまたは75Ω同軸ケーブルで、OPTICAL IN端子を接続する場合は、オフチカルケーブルで接続します。

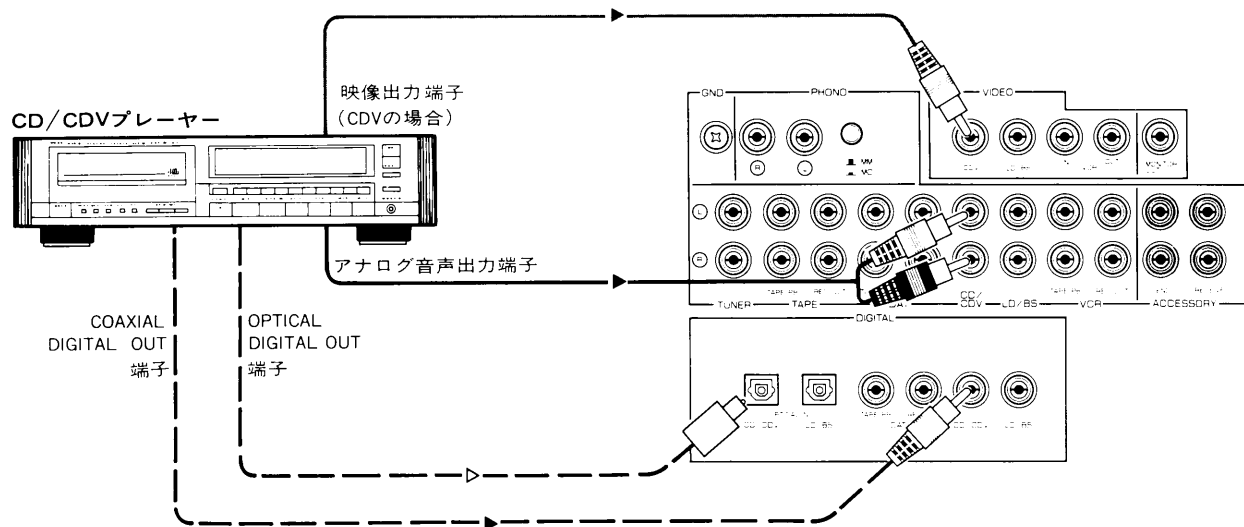
- 同軸端子とオフチカル端子を同時に接続する必要はありません。

「アナログ音声端子の接続」

CD/CDVプレーヤーのアナログ音声出力端子と本機のアナログCD/CDV L, R端子をヒンフラグコードで接続します。

「映像端子の接続」……CDVプレーヤーの場合

CDVプレーヤーの映像出力端子と本機のVIDEO CDV端子をヒンフラグコードで接続します。



LD (レーザービジョンディスク) プレーヤーまたはBS (衛星放送) チューナーの接続

LD/BS端子にはレーザービジョンディスクプレーヤーまたは衛星放送チューナーの出力を接続します。

映像出力は本機のVIDEO端子に、また音声出力はデジタル、アナログの双方の端子に接続します。

デジタル音声出力 (DIGITAL OUT) 端子を装備したLDまたはBSとデジタル接続をしますと、LDまたはBSのデジタル出力が本機のD/Aコンバーターにダイレクトに入力され、ハイクオリティな再生をすることができます

●デジタル接続をする場合も、アナログ接続を同時に行ってください。

「デジタル音声端子の接続」

LDまたはBSチューナーのデジタル音声出力端子と本機のDIGITAL LD/BS端子を接続します

同軸端子を接続する場合は、シンフラグコードまたは75Ω同軸ケーブルで、OPTICAL IN端子を接続する場合は、オプチカルケーブルで接続します

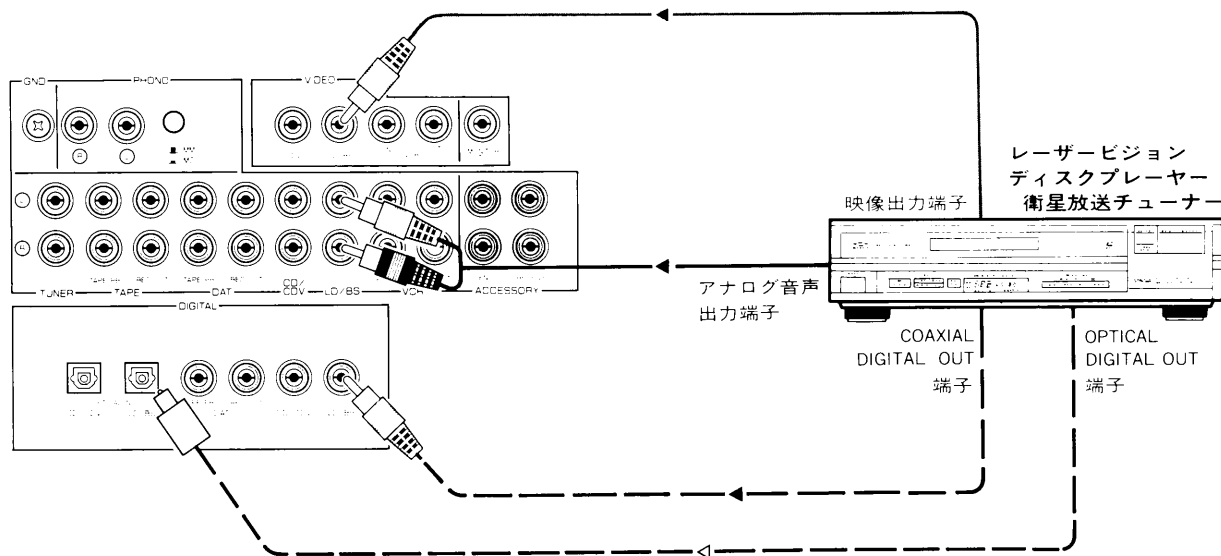
●同軸端子とオプチカル端子と同時に接続する必要はありません。

「アナログ音声端子の接続」

LDまたはBSチューナーのアナログ音声出力端子と本機のアナログLD/BS端子間をシンフラグコードで接続します。

「映像端子の接続」

LDまたはBSチューナーの映像出力端子と本機のVIDEO LD/BS端子をシンフラグコードで接続します。



DIGITAL端子について

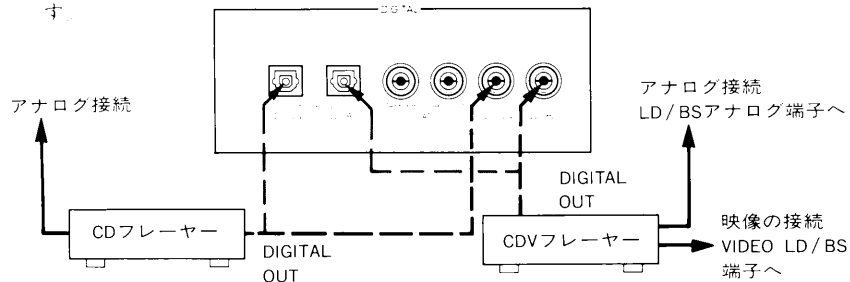
本機に内蔵のI/Oレシーバーは、各デジタルオーディオ機器のサンプリング周波数に自動追従しますので、DIGITALの各端子に表記されている機器以外の機器を接続して使用することができます。

●同軸端子とオプティカル端子を同時に接続する必要はありません。

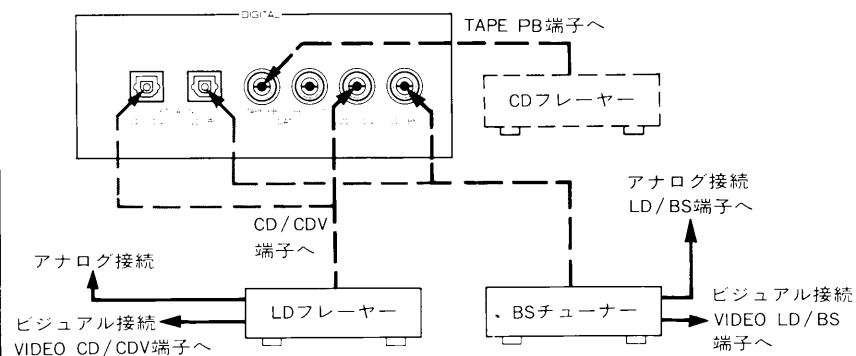
接続例

■CDプレーヤーとCDVプレーヤーを同時に接続する

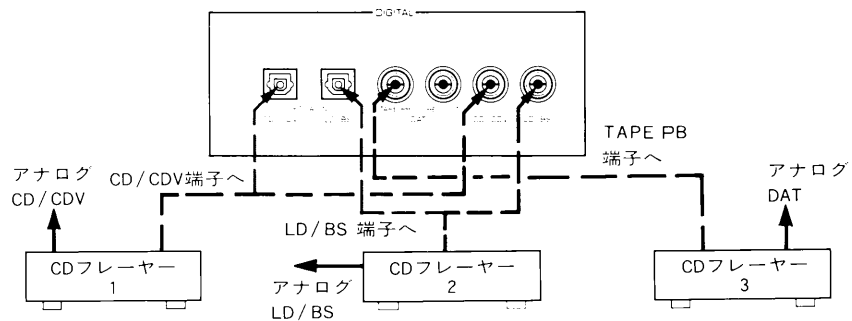
CDプレーヤーはCD/CDV端子に、CDVプレーヤーはLD/BS端子に接続します。



■LDプレーヤーとBSチューナーを同時に接続する



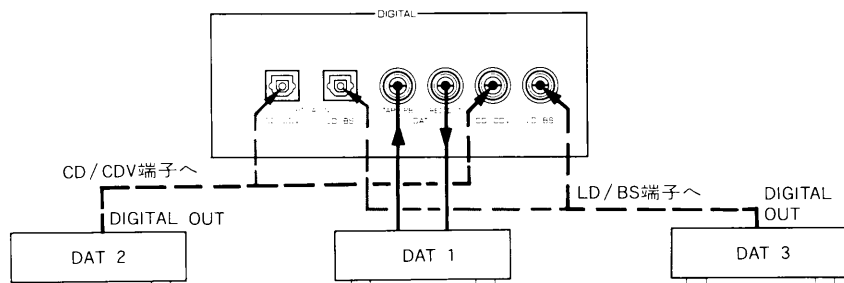
■CDプレーヤーを3台まで接続することができます。



■DATを3台まで接続することができます。

この接続をしますと、CD/CDV端子、LD/BS端子に接続したDAT 2、3のプログラムは、REC OUTセクターの操作により、DAT 1でデジタルダビングすることができます。

●市販のDATミュージックテープはデジタルダビングすることはできません。



ご注意

名称の異なる端子に接続した機器を使用するときは、INPUT SELECTOR、REC OUTセクターは接続した端子名を選んでください。また、選択した機器が本機にデジタルとアナログの両方で接続されている場合は、デジタルが優先されます。

VCR(ビデオデッキ)の接続

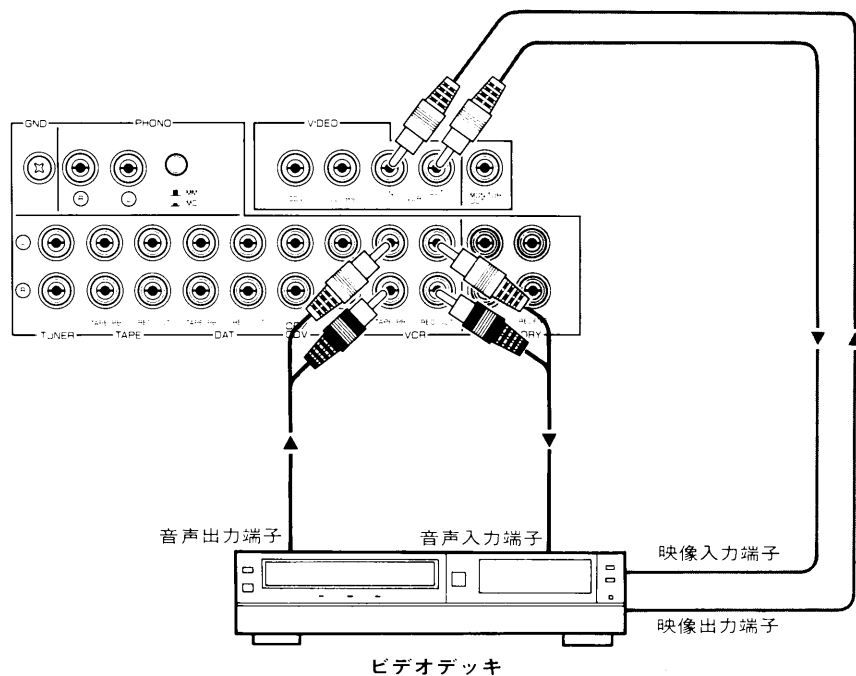
「音声端子の接続」

●音声再生用の接続

ビデオデッキの音声出力端子と本機のVCR TAPE PB L,R端子をヒンフラグコードで接続します。

●音声録音用の接続

ビデオデッキの音声入力端子と本機のVCR REC OUT L,R端子をヒンフラグコードで接続します。



「映像端子の接続」

●映像再生用の接続

ビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO VCR IN端子をヒンフラグコードで接続します。

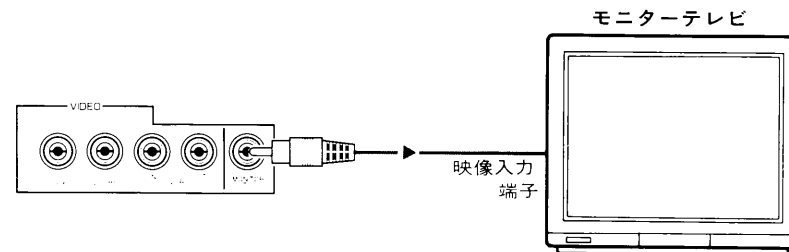
●映像録音用の接続

ビデオデッキの映像入力端子と本機のVIDEO VCR OUT端子をヒンフラグコードで接続します。

*VCR(ビデオカセットレコーダー)はVTR(ビデオテープレコーダー、ビデオデッキ)と同じ意味です。

モニターテレビの接続

モニターテレビの映像入力端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子間をヒンフラグコードで接続します。

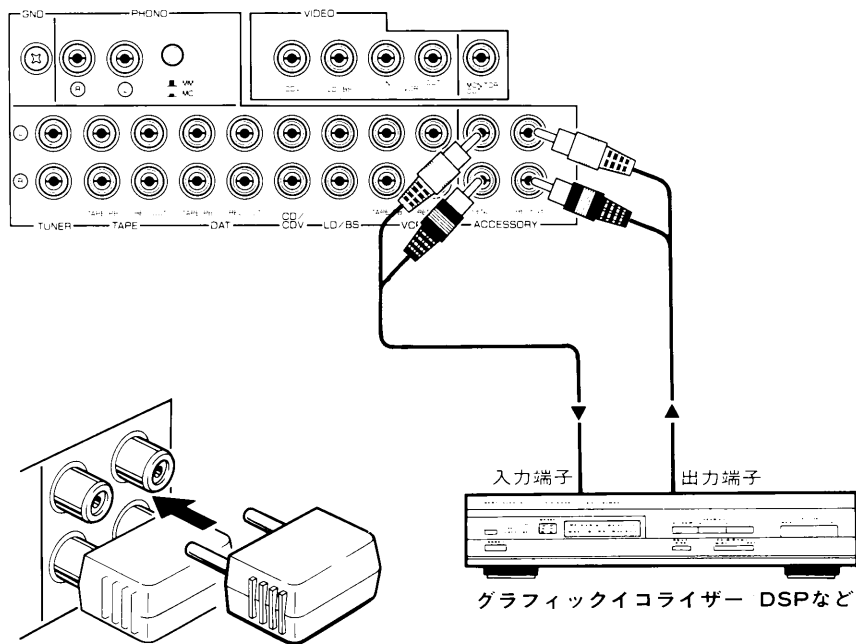


ACCESSORY端子の接続

ACCESSORY端子はグラフィックイコライザーやデジタルサウンドフィールドプロセッサーなどの外部機器を接続する際に使用します。

本端子をご使用になるときは、ジャンパーヒンを抜き、接続する機器の入力端子と本機のSEND端子間、出力端子と本機のRECEIVE端子間をヒンフラグコードで接続します。

- 詳細はご使用になる機器の取扱説明書をご参照ください。
- 本端子をご使用にならない場合は、必ずジャンパーヒンを差し込んでおいてください。ジャンパーヒンが抜けていますと音は出ません。

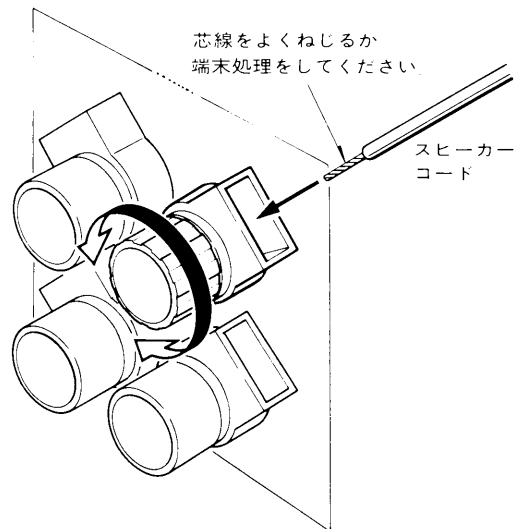


スピーカーシステムの接続

右側に設置するスピーカーのコードを本機のSPEAKERS R端子に、左側に設置するスピーカーのコードを本機のSPEAKERS L端子に、極性を確認して(+は+と、-は-) 確実に接続してください。

極性を間違えますと、低音の損なわれた不自然な再生音となります。ご注意ください。

- 本機の定格出力は100W(6Ω)です。接続するスピーカーの定格入力にご注意ください。



- 接続の際は、スピーカーコードの芯線をよくねじるか端末処理を施し、お互いにショートしないようにご注意ください。
- 接点復活剤は塗布部周辺のプラスチックに悪影響をおよぼしますので、ご使用はおさげください。

フロントパネルの名称とはたらき

● 6 ページのフロントパネルのイラストとあわせてご参照ください。

①POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。電源がONのときはインジケータが点灯します。

- 電源を入れてから数秒間はミュート回路の働きにより音はでません

②インプットインジケータ

INPUT SELECTOR で再生したいソースのインジケータを点灯させます。

PHONO : レコードプレーヤーを再生するとき。

TUNER : チューナーを再生するとき。

TAPE : テープデッキを再生するとき。

DAT : デジタルオーディオテープデッキを再生するとき。

CD/CDV : CDプレーヤーまたはCDVプレーヤーを再生するとき。

LD/BS : レーザービジョンディスクプレーヤーまたは衛星放送チューナーを再生するとき。

VCR : ビデオデッキを再生するとき。

③INPUT SELECTOR

再生するソースを選択します。

▶部分を押しすごとに、インプットインジケータが左から右に移動します。また押し続けると連続的に左から右への移動を繰り返します。

◀部分を押しすごとに、インプットインジケータが右から左に移動します。また押し続けると連続的に右から左への移動を繰り返します。

- ビジュアル系プログラムを選択したときは、オーディオ系のプログラム (DAT、TAPE、TUNER、PHONO) を、ビジュアル系の音声の替わりに、リモコンのインプットセクターで、別個に選択することができます。

④SAMPLING FREQUENCYインジケータ

デジタルのプログラムソースを入力しているときは、そのサンプリング周波数を点灯表示します。

32kHz……衛星放送Aモード、DAT (32kHz)

44.1kHz……CD、CDV

48kHz……衛星放送Bモード、DAT

⑤DIGITAL DIRECTスイッチ

デジタル信号が入力されているとき (SAMPLING FREQUENCYインジケータ点灯時) は、このスイッチを押しますと、デジタル信号はVOLUMEコントロールのみを経由して、最短経路でパワーアンプ段に直結されますので、ハイクオリティな再生することができます。

- デジタルダイレクト機能が働いているときは、インジケータが点灯します。
 - デジタルダイレクト機能を使ってデジタルプログラムを再生中は、サブソニックフィルター、トーンコントロール、モード、バランス、ラウドネス、ミュートリングの各機能およびACCESSORY端子に接続した機器は機能しません。
- LOUDNESSを操作したまま、DIGITAL DIRECTスイッチを押しますと、設定していたVOLUMEの位置に応じて大音量になることがあります。スイッチを押すときは、事前にVOLUMEを左に回し、音量を下けてください。

⑥-20dB ミュートリングインジケータ

リモコンのMUTINGキーを一度押しますと-20dBのインジケータが点灯し、音量を-20dB (1/10) にすることができます。再生中の電話応対など、一時的に音量を下げる場合に便利です。もう一度キー押しますと元の音量に戻すことができます。

- ミュートリング中に、VOLUMEコントロールを回し音量を上げ、ミュートリングを解除しますと、急激な音量変化によりスピーカーに悪影響を与えます。ご注意ください。

⑦VOLUMEコントロール

スピーカーおよびヘッドホンの音量を調整します。右に回すほど音量が大きくなります。

- リモコンで操作する場合は、VOLUMEのUPキーを押しますと音量が大きくなり、DOWNキーを押しますと、小さくなります。
- POWERスイッチや各スイッチを操作するときや、レコードに針を上げ下げするときは、必ずVOLUMEを左に回し音量を下げてください。

⑧REMOTE CONTROL受光窓

付属のリモコンRS-AX 1からのコントロール信号 (赤外線) を受光するところです。本機をリモコンで操作する場合は、リモコンの送信窓を正しくこの受光窓に向けてください。

⑨ REC OUTセクター

テープデッキやDAT、あるいはビデオデッキで録音/録画する場合にソースを選択するスイッチです。このセクターを切り換えますと、各出力端子にはインプットセクターによって選択されたプログラムソースとは独立したソース信号が出力されます。

例えば、インプットセクターでTUNERを選択しFM放送を聞きながら、REC OUTセクターをCDにしてCDをテープに録音したりすることができます。

- REC OUTセクターの出力は基本的に、アナログ入力アナログで、デジタル入力はデジタルで、ビジュアル入力はビジュアルで出力され、入力と同期しています。（デジタル入力された信号をアナログで出力すること^{*1}、またはその逆はできません）

PHONO	：レコードを録音するとき。
TUNER	：FM、AM放送などを録音するとき。
TAPE	：テープデッキのプログラムを録音するとき。
OFF	：録音・録画をしないときは、この位置にします。
SOURCE	：インプットセクターで選択したプログラムを録音するとき。
DAT	：DATのプログラムを録音するとき。
CD/CDV	：CDまたはCDVのプログラムを録音・録画するとき。
LD/BS	：レーザービジョンディスクまたは衛星放送を録音・録画するとき。
VCR	：VCRの音声プログラムを録音するとき。

*1 SOURCEポジションについて

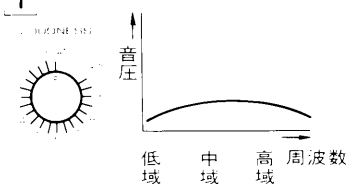
SOURCEポジションではインプットセクターで選択されたプログラムソース信号が各録音・録画出力端子に出力されます。プログラムソースがデジタルの場合にも、アナログ出力端子にはD/Aコンバーターを経由した信号が出力されます。また、ビジュアル系のプログラムソースの映像と音声とを個別に選択した場合は、VCRのビジュアル、オーディオ出力端子にそれぞれ出力されます。

⑩ LOUDNESSコントロール

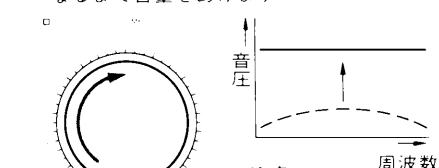
人間の聴感^{ラウドネス}は、音量が小さくなる程、低音と高音が聴えにくくなるという特性があります。これを補正するのが、ラウドネスコントロールです。本機は聴いている音量レベルに応じて継続的に補正することができますので、どの音量レベルでも低域から高域まで、自然に再生することができます。

LOUDNESSの操作方法

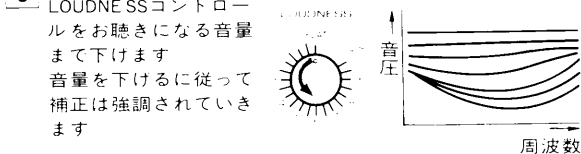
1 最初FLATにします



2 低域から高域までのバランスが最適になるまで音量をあげます



3 VOLUMEはそのままで、LOUDNESSコントロールをお聴きになる音量まで下げます。音量を下げるに従って補正は強調されていきます



ご注意
LOUDNESSを操作したまま、DIGITAL DIRECTスイッチを押しますと、2で設定した音量となり、大音量となることがあります。ボリュームを左に回し、音量を下げてからスイッチを押してください。

⑪ BALANCEコントロール

左右のスピーカーの音量バランスを調整するときに使います。つまみを右(左)に回しますと左(右)の音が小さくなります。バランス調整をするときは、MODEスイッチを押してモノラル再生にしてから左右のスピーカーの音が中央に定位するように調整します。調整が完了しましたらMODEスイッチを“STEREO”に戻します。

⑫ TREBLEコントロール

高音域を調整します。つまみを右(+側)に回しますと高音域がブースト(増強)され、左(-側)に回しますとカット(減衰)されます。センター(0)位置ではフラットな周波数特性となります。

⑬ BASSコントロール

低音域を調整します。つまみを右(+側)に回しますと低音域がブースト(増強)され、左(-側)に回しますとカット(減衰)されます。センター(0)位置ではフラットな周波数特性となります。

リモコンについて

⑭MODEスイッチ

プログラムソースの再生モードを切り換えるスイッチです。

“STEREO”の位置では通常のステレオモードで再生され、スイッチを押して“MONO”の位置にしますとモノラルモードで再生されます。

通常は“STEREO”にしておきます。

⑮SUBSONIC FILTERスイッチ

スイッチを押してONにしますと、サブソニックフィルターが働き、15Hz以下の可聴帯域外の超低域信号をカットします。ソリの大きいレコードを再生するときなどにONにしておきますと、不要な超低域振動によるスピーカーへの悪影響を防止することができます。

⑯VIDEOスイッチ

ビジュアル系プログラム（VCR、LD/BS、CDV）の映像をモニターテレビで再生するときやLD/BS、CDVの映像を録画するときは、スイッチをONにします。

●映像が不要の場合はスイッチをOFFにしてください。

⑰SPEAKERスイッチ

スピーカーからの音をON、OFFするスイッチです。

●ヘッドホンでモニターする場合は、スイッチをOFFにしてください。

⑱PHONESジャック

ステレオヘッドホンでモニターするときは、このジャックに接続します。

ヘッドホンだけをお使いになるときは、SPEAKERスイッチをOFFにしてください。

●フライベートリスニングの際はヘッドホンのご使用をお勧めします。

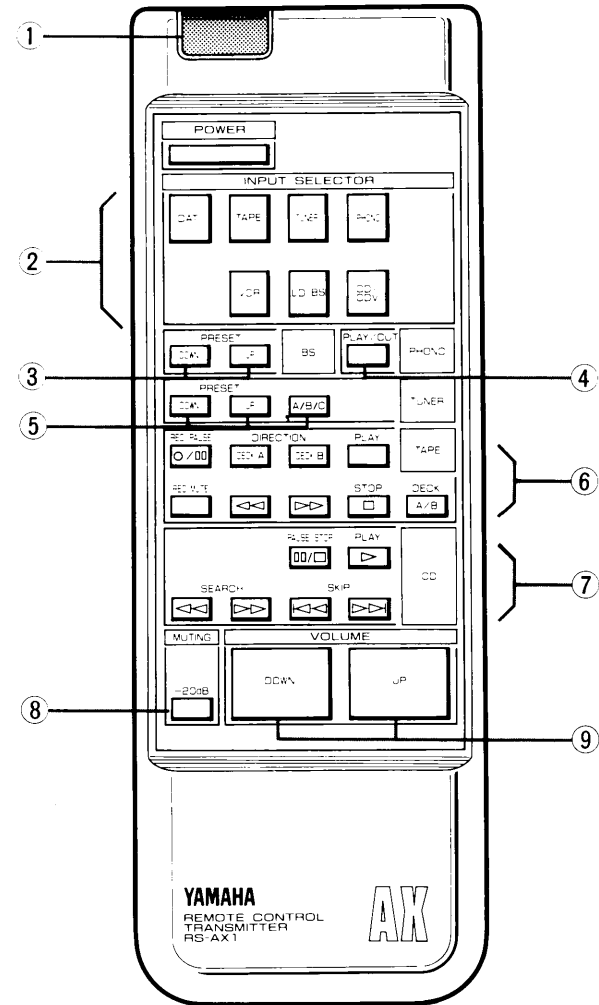
⑲シーリングパネル

比較的に使用頻度の少ないスイッチやコントロールを収納しています。

シーリングパネルを開けるときは、パネル下部を軽く押してください。

⑳ジャイアントレグ

このジャイアントレグを外しますとヒンポイントレグ仕様となります。



■リモコン各部の名称とはたらき

付属のリモコンをご使用になりますと、本体およびシステムをリスニングポジションを離れることなく操作することができます。

- 付属のリモートコントロールケーブルで本機のREMOTE CONTROL端子に接続したRSマークの付きのヤマハのテーフデッキ、チューナー、レコードプレーヤーを本リモコンで操作することができます。
- リモートコントロール機能を持つヤマハのBSチューナー、CDプレーヤーを本リモコンで操作することができます。（機器によっては本リモコンでは操作できない機能もあります）

① 送信窓

リモコンのコントロール信号（赤外線）を送信する窓です。本体のリモコン受光窓に正しく向けてからキーを押してください。

② INPUT SELECTORキー

プログラムソースを選択するキーです。

キーの動きは本体のキーと同様ですが、再生するソースをダイレクトに選択することができます。

③ BSチューナーコントロールキー

PRESET DOWN, UP : ヤマハのBSチューナーのプリセット局を選択することができます。

④ PHONO (レコードプレーヤー) コントロールキー

PLAY/CUT : ヤマハのRSマーク付きレコードプレーヤーの演奏を開始/停止することができます。

⑤ TUNERコントロールキー

PRESET DOWN/UP : ヤマハのRSマーク付きチューナーのプリセット局を選択することができます。

A/B/C : プリセット局のグループA、B、Cを選択することができます。

6 TAPEコントロールキー

ヤマハのRSマーク付きテーフデッキをコントロールします

O/00 : テーフデッキがREC/PAUSEになります。

DIRECTION

DECK A : ダブルデッキのデッキAのテーフ走行方向を切り替えます。

DECK B : ダブルデッキのデッキBのテーフ走行方向を切り替えます。

PLAY : テーフデッキの再生が開始されます。

REC/MUTE : テーフデッキがレックミュートになります。

REW/FF : テーフを早戻し/早送りします。

STOP : テーフの送行がストップします。

DECK A/B : ダブルデッキのデッキA/デッキBを選択します

7 CDコントロールキー

ヤマハのCDプレーヤーをコントロールします

PAUSE/STOP : 一度押すとホーズ、もう一度押すと一時停止になります。

PLAY : CDプレーヤーの再生が開始されます。

SEARCH : 再生を早戻し/早送りします。

SKIP

SKIP : 曲を逆方向/正方向にスキップします。

8 MUTINGキー

このキーを押しますと、スピーカー（ヘッドホン）からの音量を-20dB (1/10) に下げることができます。もう一度このキーを押しますと、音量はもとに戻ります。

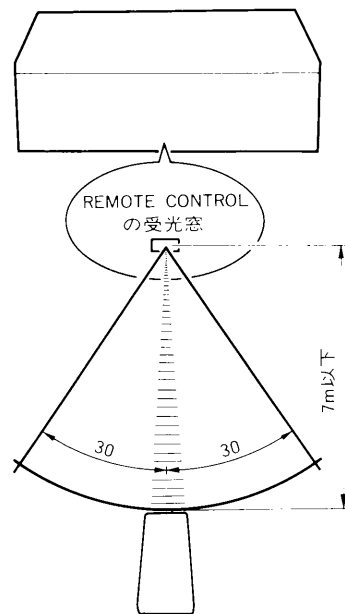
9 VOLUME UP, DOWNキー

音量を調整するキーです。

音量を上げる場合はUPキーを、下げる場合はDOWNキーを押します。

■リモコン操作可能範囲

信号光は直進性の高い赤外線を使っていますので、受光窓との角度にご注意ください。



付属のリモコンは…

本機専用です。近くに他の機器が設置されていると、誤動作をおこすことがあります。リモコン操作によって誤動作する機器があるときは、その機器のリモコン受光部をふさぐか、設置場所を変えてください。

ていねいに扱ってください。

お茶や水をこぼしたり、強くたたいたり、落としたりしないでください。ストーブのそばや風呂場など、温度・湿度の高い所にも置かないようご注意ください。

リモコン受光窓に、直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようご注意ください。

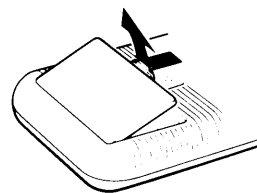
強い光が当たっていると、リモコンが動作しなかったり、働きにくくなります。

電池の交換時期は？

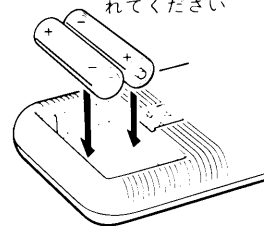
リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。

●電池の交換のしかた

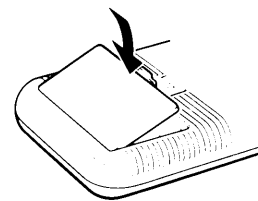
1 リモコンユニットの裏のふたをはずす



2 SUM-3 (単3) 型乾電池2個を＋を正しく入れてください



3 電池をセットしたらカチッと音がするまでしめる



■乾電池についてのご注意

- 単3型乾電池をご使用ください。
- プラス(+)とマイナス(-)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の＋と－を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れたりしないでください。万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

操作のしかた／再生

- 電源を入れる前に、接続が間違いなく行われていることを確認してください。
- リモコンで操作する場合は、対応するキーをご使用ください。

1 再生する機器の電源を入れます。

2 本機のVOLUMEが最小の位置(－)の位置になっているか確認してから、POWERスイッチを押します。

- 電源がONになっても数秒間は本機のミューティング回路の働きにより音はでません。

3 SPEAKERスイッチを押してONにします。

- ヘッドホンを使用する場合はSPEAKERスイッチをOFFにします。

4 INPUT SELECTORで再生をするプログラムソースを選択します。

- レコードを再生する場合……PHONO
- AM, FM放送を聞く場合……TUNER
- テープレッキを再生する場合……TAPE
- DATを再生する場合……DAT
- CDやCDVを再生する場合……CD/CDV
- LDやBS放送を再生する場合……LD/BS
- ビデオデッキを再生する場合……VCR

- CDV, LD, BS, VCRなどのビジュアルプログラムの映像をモニターする場合はモニターテレビの電源を入れ、本機のVIDEOスイッチをONにします。
- ビジュアルプログラムの映像をモニター中は、ビジュアルプログラム以外の音声をPHONO, TUNER, TAPE, DATのオーディオプログラムの中から、任意の組み合わせでリモコンのINPUT SELECTORで選択することができます。

5 レコードを再生する場合は、スピーカー保護のためSUBSONIC FILTERスイッチをONにすることをおすすめします。

6 プログラムソースの再生を始めます。

- 各機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書をご参照ください。

7 デジタル端子に接続している機器を再生しているときは、デジタル入力信号のサンプリング周波数を自動検知し、SAMPLING FREQUENCYインジケータが点灯します。

- ・32kHz : DAT (32kHzモードのとき)、衛星放送Aモード
- ・44.1kHz : CD, CDV, DAT (ソフトテーフ再生時)
- ・48kHz : DAT (48kHzモードのとき)、衛星放送Bモード

- デジタル端子に接続している機器を再生しているときは、DIGITAL DIRECTスイッチをONにしますと、デジタルダイレクトが機能し、ハイクオリティな再生をすることができます。

8 本機のVOLUME, LOUDNESS, TREBLE, BASSなどを調整して、お好みの音量、音質でお楽しみください。

- DIGITAL DIRECTスイッチをONにして、デジタルダイレクト機能が働いているときは、LOUDNESS, TREBLE, BASS, MODE, BALANCE, SUBSONIC FILTER, MUTINGの各機能は働きません。

●ご注意

LOUDNESSを操作したまま、DIGITAL DIRECTスイッチを押してデジタルのプログラムを再生しますと、設定していたVOLUME位置に応じて大音量となることがあります。スイッチを押す前にLOUDNESSコントロールはFLAT位置に、VOLUMEは左に回しておくことをおすすめします。

またDIGITAL DIRECT機能は、プログラムを切り換えてもメモリーされています。

アナログプログラムからデジタルプログラムに切り換えるときなど、特にご注意ください。

本機では、アナログ信号とデジタル信号が同時に入力された場合には、デジタル信号を優先して入力します。

また、デジタル信号が同軸、オフチカルの双方の信号で同時に入力された場合は、オフチカル入力が優先して選択されます。

操作のしかた／録音・録画

ジャイアントレグとピンポイントレグについて

本機の出荷時は、ヒンポイントレグの上にジャイアントレグが装着されています。

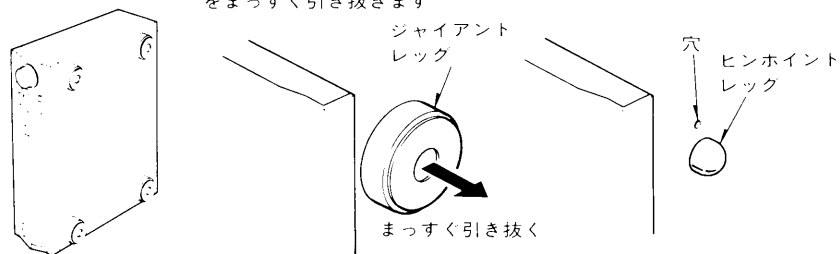
このままの状態でご使用になりますと、ゆったりとした雰囲気や安定感にあふれた音質が得られます。

また、ジャイアントレグを外しますと、ヒンポイントレグ仕様となり、音像定位の良いカッチリとした音質が得られます。ジャイアントレグは簡単に脱着できますので、お好みの音質を選んでお楽しみください。

●ジャイアントレグの外しかた

本体を横にします

本体を支えながらジャイアントレグをまっすぐ引き抜きます



●ジャイアントレグの装着のしかた

外したときと逆の手順でヒンポイントレグにまっすぐに装着してください。

その際ジャイアントレグの突起を本体底板の穴に入れ、底板に密着するようにしてください。

●ジャイアントレグとピンポイントレグを混ぜてご使用にはならないでください。

●長期間、ヒンポイントレグでご使用になりますと設置台にへこみをつけたりすることがあります。また、移動時に、本体を持ち上げずにスベらせたりしますと、設置台に傷を付けることがあります。設置台の材質や移動方法には充分ご注意ください。またガラスの台は、割れたり、すべる危険がありますので、設置しないでください。

オーディオプログラムの録音のしかた

- 1 本機、テーフデッキまたはDATおよび録音したいソース機器の電源を入れてください。
- 2 REC OUTセクターで録音したいソースを選択してください。
- 3 録音したいプログラムソースを、スタートさせます。
- 4 テーフデッキまたはDATをスタートさせ録音を始めます。
(テーフデッキ、DATの操作方法は、各機器の取扱説明書をご参照ください。)
- 5 録音する音をモニターするときは、インプットセクターで録音したいソースを選びます。

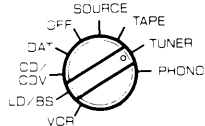
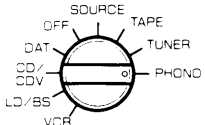
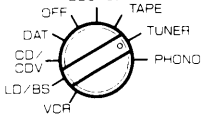
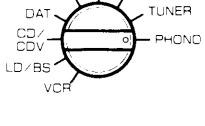
- DATからテーフデッキにダビングするときは、必ずデジタル接続のほかにはアナログ接続されている必要があります。
デジタル接続のみでは、ダビングすることはできません。
- 市販のDATミュージックテーフやCDからDATへ直接デジタル録音することはできません。また48kHzのDATミュージックテーフもコピー禁止信号が記録されていますとデジタル録音はできません。

ご注意

- アナログ入力信号はデジタル出力端子には出力されませんので、レコードプレーヤー、AM、FMチューナーの音声出力をDIGITAL DAT OUT端子に接続したDATでデジタル録音することはできません。

REC OUTセレクトターについて

インフットセレクトターで選んだプログラムソースを聴きながら、別のプログラムソースをREC OUTセレクトターで選んで録音することができます

	インフットインジケーター	REC OUTセレクトター
チューナーの放送を聴きながら、同時に録音する	TUNER ■	 またはSOURCEポジション
CDを聴きながら、レコードを録音する	CD/CDV ■	
レコードを聴きながら、チューナーの放送を録音する	PHONO ■	
TAPEを聴きながら、レコードを録音する	TAPE ■	

この他にもインフットセレクトターとREC OUTセレクトターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

●SOURCEポジションについて

本機のREC OUTセレクトターは入力と出力が同期しています。つまりデジタルで入力された信号はデジタル出力され、アナログで入力された信号はアナログで出力されます。またビジュアル入力はビジュアル出力されます。(VCR入力を除く)

しかし、REC OUTセレクトターをSOURCEポジションにしますと、デジタルで入力された信号は、本機のD/Aコンバーターを経由してアナログ出力端子にも出力されます。CD、DAT、レーザービジョンディスクプレーヤー、衛星放送などのデジタルオーディオ信号をテープデッキやビデオデッキで録音するときは、活用ください。入力信号とREC OUT端子に出力される信号の関係は、下表をご参照ください

REC OUTセレクトター	入力信号の種類 → 各REC OUT出力される信号の種類	
PHONO	アナログ信号のみ	アナログ信号のみ
TUNER	アナログ信号のみ	アナログ信号のみ
CD/CDV	デジタル信号(オフチカルまたは同軸)	デジタル信号
	ビジュアル(映像)信号(CDVのみ)	ビジュアル(映像)信号(CDVのみ)
SOURCE*	デジタル信号	デジタル信号 (D/A変換されアナログ信号で アナログ端子にも出力されます)
	アナログ信号	アナログ信号
	ビジュアル信号 (LD/BS CDVのみ)	ビジュアル信号 (LD/BS CDVのみ)
OFF	入力されません	出力されません
TAPE	アナログ信号	アナログ信号
DAT	デジタル信号	デジタル信号
	アナログ信号	アナログ信号
LD/BS	デジタル音声信号	デジタル音声信号
	アナログ音声信号	アナログ音声信号
	ビジュアル信号	ビジュアル信号
VCR	アナログ音声信号	アナログ音声信号
	ビジュアル(映像)信号	出力されません

*REC OUTセレクトターを“SOURCE”位置にしますと、インフットセレクトターで選択したプログラム信号がそのままREC OUT端子 (DIGITAL : DAT REC OUT, アナログ : TAPE REC OUT, DAT OUT, VCR OUT)に出力されます

*REC OUTセレクトターをVCR位置にしたとき、およびINPUT SELECTORをVCRにしREC OUTセレクトターをSOURCE位置にした場合は、VCRのビジュアル信号は、VCR REC OUT端子には出力されません。

VCR(ビデオデッキ)での録画のしかた

レーザービジョンディスクプレーヤー(LD)や衛星放送(BS)のプログラムをビデオデッキで録画することができます。

- 1** 本機および各機器の電源をONにします。
- 2** VIDEOスイッチをONにします。
- 3** 録画をするプログラムソースはインプットセレクターで選択します。
 - REC OUTセレクターをSOURCEの位置にします。
- 4** 録画をするプログラムソースの再生を開始します。
- 5** ビデオデッキを操作し録画を開始します。
 - REC OUTセレクターをSOURCEの位置にしますと、録画内容をMONITOR OUT端子に接続したモニターテレビでモニターすることができます。
 - オーディオプログラムソースは本機に接続したスピーカーでモニターします。
 - インプットセレクターで選んだプログラムソースとは別のプログラムを録画するときは、REC OUTセレクターを録画するプログラムに合わせます。

●CDV、LD/BSの映像はそのまま、音声のみを変更して録画するには

- 1** 本機および各機器の電源をONにします。
- 2** VIDEOスイッチを押してONにします。
- 3** REC OUTセレクターをSOURCEの位置にします。
- 4** まずリモコンのインプットセレクターで録画するビジュアルプログラムを選択します。
- 5** 次にリモコンのインプットセレクターで録音するオーディオプログラムを選択します。
- 6** 映像を録画するプログラムソース、およびオーディオプログラムソースの再生をスタートします。
- 7** ビデオデッキを操作し、録画を開始します。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

タイマー再生、タイマー録音・録画のしかた

本機は電源を切る前の状態を内蔵のマイコンが記憶していますので（通常の通電で1週間程度）市販のオーディオタイマーと組み合わせることにより、タイマー再生やタイマー録音・録画をすることができます。

●ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書もあわせてご参照ください。

■タイマー再生のしかた

●接続のしかた

- 1 本機の電源フラグをオーディオタイマーに接続します。
- 2 本機のAC OUTLETにタイマー再生する機器の電源フラグを接続します。
（このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を超えないようにご注意ください）

●操作のしかた

- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のインプットセレクターでタイマー再生する機器を選択します。
- 3 再生する機器を操作し、タイマー再生が可能な状態にセットします。
- 4 本機のVOLUMEを適当な音量に調整します。
- 5 タイマー再生の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。
これでご希望の時間になりますと、タイマー再生が開始されます。

■タイマー録音のしかた

●接続のしかた

- 1 本機の電源フラグをオーディオタイマーのコンセントに接続します。
- 2 チューナーなど録音する機器およびデッキの電源フラグを本機のAC OUTLETに接続します。（このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を超えないようにご注意ください）

●操作のしかた

- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のREC OUTセレクターで録音するソースを選択します。
- 3 チューナーなど録音する機器およびデッキを操作して、録音できるようにセットします。
- 4 録音の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。
これで予定の時間になりますと、タイマー録音をすることができます。
●タイマー録音時に音出しが不要の場合は、SPEAKERSスイッチをOFFにしておきます。

■タイマー録画のしかた（衛星放送の録画）

●接続のしかた

- 1 本機の電源フラグをオーディオタイマーのコンセントに接続します。
- 2 BSチューナーなど録画する機器およびデッキの電源フラグを本機のAC OUTLETに接続します。（このとき本機に接続する機器の消費電力の合計が、AC OUTLETの供給電力を超えないようにご注意ください）

●操作のしかた

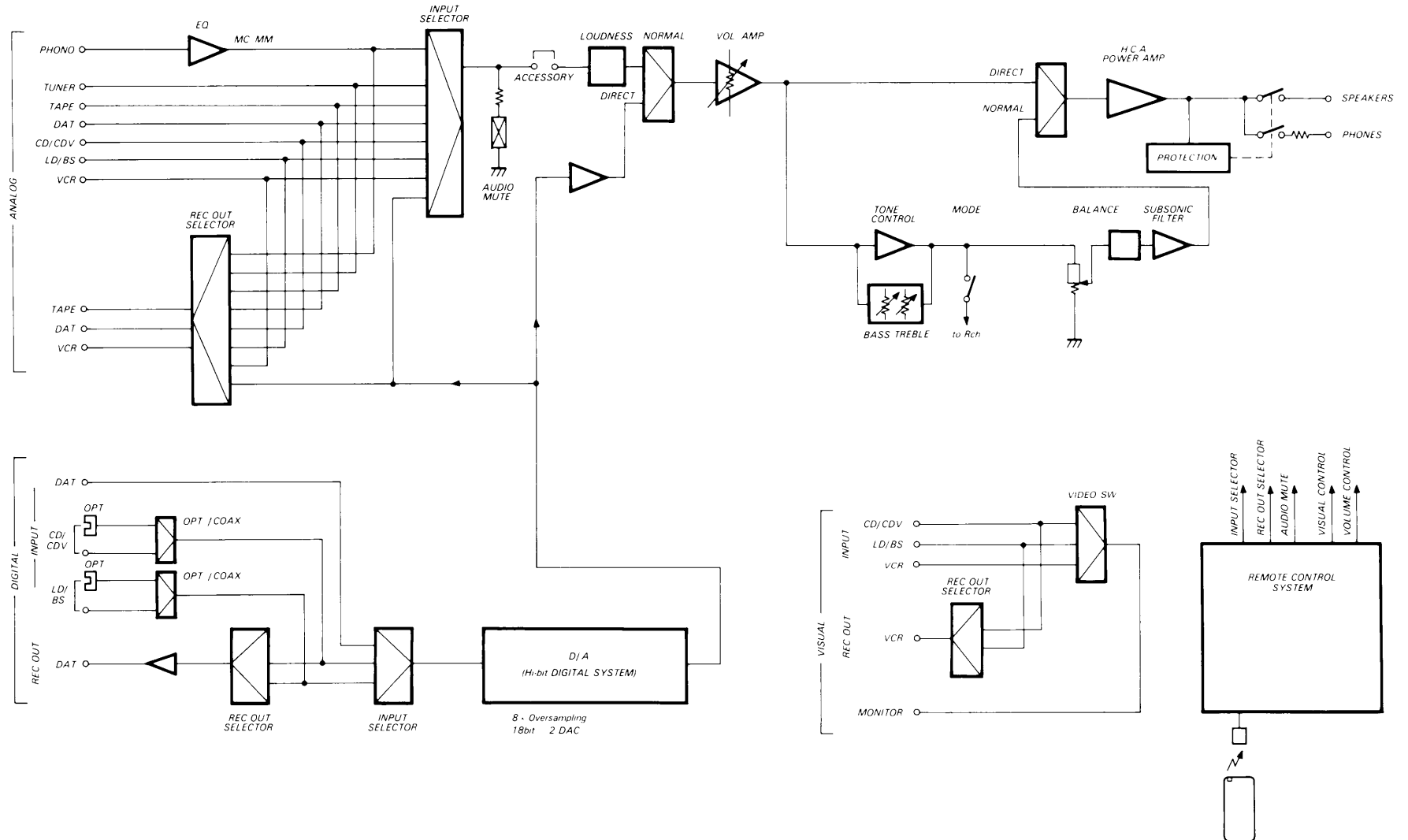
- 1 すべての機器の電源をONにします。
- 2 本機のREC OUTセレクターで録音するソース(LD/BS)を選択します。
- 3 BSチューナーなど録画する機器およびデッキを操作して、録画できるようにセットします。
- 4 録画の開始時間および終了時間をオーディオタイマーでセットします。
これで予定の時間になりますと、タイマー録音をすることができます。
●タイマー録音時に音出しが不要の場合は、SPEAKERSスイッチをOFFにしておきます。

故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源フラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源フラグの接続が不完全	電源フラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください
音が出ない	ショートフラグがREC OUT端子に差し込まれている	ショートフラグを抜いてください
	インプットセクターが、再生したいプログラムソースを選択していない	再生したいプログラムソースのインプットインジケータを点灯させてください
	アクセサリ端子のジャンパーピンが抜けている	ジャンパーピンが抜けていますと音が出ません 2本とも正しく差し込まれているか、確認してください
	接続が不完全	接続を確認してください。
片チャンネルの音がない	BALANCEコントロールがどちらか一方に回し切られている	BALANCEコントロールで左右の音量バランスを調整してください
	アナログ系のヒンフラグコードの接続が不完全	接続を確認してください。
ハム音ができる	ヒンフラグコードの接続が不完全	ヒンフラグをしっかりと差し込みなおしてください
	レコードプレーヤーのアースコードを接続していない	アースコードを本機のGND端子に接続してください
レコード演奏のときに音が不自然	PHONOセクターの選択が違っている。	レコードプレーヤーの使用しているカートリッジ（MMまたはMC）にPHONOセクターを合わせます。
VOLUMEコントロールを回しても音量があまり上がらない	MUTINGがONになっている	一度VOLUMEコントロールを左に回しきり、音量を下げてからMUTINGをOFFにし、再度音量を調整してください
デジタルプログラムソースのトーンコントロールができない	DIGITAL DIRECTスイッチがONになっている	DIGITAL DIRECTスイッチを押して、インジケータを消灯させてください
リモコン操作ができない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンの操作距離、角度が不適当	本体のリモコン受光窓に対して7 m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
本機の電源を入ると、テレビの画面が乱れたり、チューナーの音に雑音が入る	本機とテレビ、チューナーの設置場所が近すぎる	設置場所を離すか、テレビ、チューナーのアンテナを専用の屋外アンテナに変えてみてください

ブロックダイアグラム



参考仕様

■オーディオセクション

定格出力（両CH駆動）

8 Ω 0.003%	85W + 85W
6 Ω 0.005%	100W + 100W

ダイナミックパワー（片CH当り）

1kHz, 2 Ω / 4 Ω / 6 Ω / 8 Ω	230W/200W/170W/140W
---	---------------------

パワーバンド幅

0.03%, 42.5W/8 Ω	10Hz~50kHz
-------------------------	------------

ダンピングファクター

1kHz, 8 Ω	110以上
------------------	-------

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MC	160 μ V/220 Ω
PHONO MM	2.5mV/47k Ω
CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR	150mV/47k Ω

最大許容入力

PHONO MC (1kHz, 0.01% THD)	10mV
PHONO MM (1kHz, 0.01% THD)	160mV

出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/1000 Ω
---------	---------------------

ヘッドホン出力/ヘッドホンインピーダンス

0.003% THD 8 Ω	0.75V/270 Ω
-----------------------	--------------------

周波数特性（20Hz~20kHz）

CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR	+ 0.5dB
-----------------------------	---------

RIAA偏差

PHONO MC	\pm 0.3dB
PHONO MM	\pm 0.2dB

全高調波歪率（20Hz~20kHz）

PHONO MC \rightarrow REC OUT (3V)	0.007%
PHONO MM \rightarrow REC OUT (3V)	0.003%
CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR \rightarrow SP OUT 42.5W/8 Ω	0.003%

混変調歪率

CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR	0.003%
-----------------------------	--------

S/N比（IHf・Aネットワーク、入力ショート）

PHONO MC (250 μ V)	70dB
PHONO MM (2.5mV)	86dB
CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR	100dB
実用S/N MAIN VOL. -22.5dB	110dB

チャンネルセパレーション（VOL-30dB）

PHONO MC（ショート）	70dB
PHONO MM（ショート）	70dB
CD/VIDEO/TUNER/AUX/TAPE/VCR (5.1k Ω)	65dB

トーンコントロール

BASS	\pm 10dB (20Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	\pm 10dB (20kHz)
タールオーバー周波数	3.5kHz

フィルター特性

SUBSONIC FILTER	15Hz, -18dB/oct
-----------------	-----------------

コンティニュアスラウドネスコントロール

最大補正量（聴感補正カーブによる）	-40dB (1kHz)
-------------------	--------------

オーディオミューティング

	-20dB
--	-------

■D/Aコンバーターセクション

周波数特性（20Hz~20kHz）

	\pm 0.3dB
--	-------------

ディ・エンファシス偏差

	\pm 0.3dB
--	-------------

高調波歪率+ノイズ（1kHz）

	0.003%
--	--------

チャンネルセパレーション

1kHz	100dB
10kHz	85dB
S/N比(EIAJフラット)	110dB
ダイナミックレンジ(EIAJ)	100dB
出力電圧	2V

■ビデオセクション

VIDEO入力感動/入力インピーダンス

LD/BS, VCR	1V _{P-P} /75 Ω
------------	--------------------------------

VIDEO出力電圧/出力インピーダンス

MONITOR OUT, VCR OUT	1V _{P-P} /75 Ω
----------------------	--------------------------------

■総合

定格電源電圧、周波数

	AC100V 50/60Hz
--	----------------

定格消費電力

	190W
--	------

ACアウトレット

SWITCHED（連動） \times 2	Total 100W max
UNSWITCHED（非連動） \times 1	200W max

外形寸法（W \times H \times D）

	435 \times 140 \times 422.5mm
--	-----------------------------------

重量

	14kg
--	------

●参考仕様および外觀は改良のため予告なく変更されることがございます

ヤマハホットインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テフデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

（電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口）

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230 TEL(06)877-5262
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市九亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 特販営業所 TEL(03)255-1825 音響通第一営業所 TEL(03)255-5691 音響通第二営業所 TEL(03)255-5691 神田営業所 TEL(03)255-6767 販売二課 TEL(03)255-2302
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル 北関東営業所 TEL(025)241-2084
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F 千葉営業所 TEL(0472)47-6622
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ッ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551 販売二課 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんはセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 中央営業所 TEL(06)647-6411 販売二課 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよきん広島ビル内 中国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ホームエレクトロニクス事業本部 お客様ご相談センター TEL(0534)60-3421

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10 1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内販売統括部 TEL.(0534)60-3421
生産管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります

YAMAHA